

氏 名： 沢口 恵
学位の種類： 博士（看護学）
学位記番号： 甲第 137 号
学位授与年月日： 2015 年 9 月 15 日
学位授与の要件： 学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員： 主査 及川 郁子（聖路加国際大学教授）
副査 伊藤 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 荒木 暁子（千葉リハビリテーションセンター）

論文題目： 訪問看護師による親の子育ての協働の構造
～医療的ケアが必要な障害のある子どもの子育て～

博士論文審査結果

本研究は、近年増加している、高度な医療的ケアを要しながら在宅に移行する乳幼児とその家族への訪問看護師の支援について検討するものである。在宅ケアにおいては、訪問看護師の役割が重要であるが、訪問看護師は、医療的ケアや日常生活援助を、子どもの成長発達に向けた、子育ての一環としてとらえ支援していると言われている。本研究は、親の「子育て」に焦点をあて、訪問看護師と親との協働のあり方を構造化することが目的である。15名の訪問看護師へのインタビュー調査から、「親の子育ての自律を目指しながら、子どもの障害に向き合う親とともに歩む」訪問看護師と親との協働のあり様が示された。

審査では、以下の点が指摘され修正が求められた。

- ①シンボリック相互作用論を理論前提としているが、構造図でどのように反映されているか見えにくいこと
- ②サブカテゴリーの命名について抽象度が異なるものや一般化しすぎているなど、カテゴリーとの整合性がないこと
- ③考察が結果の繰り返しとなっており、ポイントを絞って記載すること
- ④世話、介護、育児、子育てなどの表現に統一性がないこと

研究者の修正に時間を要したこともあり、2回目の審査で修正点を確認した。

審査の結果、シンボリックな相互作用を十分反映させているとはいえないものの、親と訪問看護師の協働のプロセスの中で実践する看護師の姿が浮き彫りにされていると評価された。「自律」という概念や構造図の現し方についてさらに検討すべき点はあるが、本論文は、今日的課題である小児の在宅支援に焦点をあて、医療的ケアを抱えながら子どもを育ていく親への看護師の支援に対する貴重なデータや示唆を提供している点で、研究の意義は大きい。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。